

このように生きましょ  
う・・・  
平和な世界を  
信じます

Kheder

僕たちの年代の子供たちは皆、自分の国で平和を知ることはありませんでした。戦争の中で生まれ、育ったからです。彼らの心の中には、より良い世界への希望はありません。

でも僕は、たとえマスメディアは違うことを伝えても、平和な内に一致した世界は可能だと思えます。

僕がそう信じるのは、その目的をもって生きるたくさんの若者や大人たちの中に一致した世界は可能なことを見たからです。理由もなく、僕に反感を持っている子たちがいる時期がありました。

その子たちを祈りの内に神様に委ね、たくさんの愛の行いをして、僕はその子たちに何も反感を持っていないことを示しました。小さなプレゼントをあげたり、電話をしたり、彼らの家を訪問したり...

そうしているうちに、彼らは僕に話しかけ、毎日挨拶をするようになりました。そして一緒に外に遊びに行くようになりました。

僕は、最初の一步を自分たちから始めれば、世界は変わることがはっきりとわかりました。



私の目標：

弱さの内に

強さを

見つけます

命の言葉 | 9月

**私について来たいものは、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。** (マルコ 8, 34)

イエスはエルサレムに向かい、そこで死んで復活すること打ち明けた。弟子たちに次のことを言われました。  
「私について来たいものは・・・」

イエスに従うことは大変なことです。イエスと同じ人生、運命を体験することを意味します。たとえ喜びや情熱は欠かせないにしても、失敗や反感をうけること、死ぬことも、です。どのようにしてイエスに従いますか？

ひとつは『自分を捨てる』こと。

ペトロに、神のことを思わず、人間のことを思っていると厳しくしかった時に、言ったことです。私たちもペトロのように、自分の満足や、安楽な生活を優先します。

**自分を捨てることは神様が考えるようにすることを意味します。イエスがなさったように、です。**

「イエスの弟子となるために、私は他の人の必要にいつも心を向けるようになります」

実りをもたらすために死ななければいけない一粒の麦のたとえ話のように、喜びは、受け取る時よりも与える時に感じます。愛するために命を与えることです・・・それを一言で言うと、自分の十字架を背負うことです。人生の中で出会うあらゆる出来事や状況です。私たちは一人で十字架を背負うのではなく、イエスと一緒に背負います。このようにイエスに従い、イエスの本物の弟子になります。

私たちが弱いと感じる時に、強さを見出します。そこにはイエスがいらっしゃるからです。

「全ての障害が、ジャンプ台になります」